

早い時期にせっかく貴重な経験ができるチャンスなので、今回の研究室配属において、本格的な実験・研究を行いたいという気持ちはありました。しかし、これまでの実習などを通じて、私はミスを恐れるあまり実験手技のスピードが遅いという自覚があり、急げば失敗が生じてしまうのではないかと懸念を抱いていました。そうした中、失敗を恐れずに取り組んでほしいというメッセージ、きめ細かくご指導いただけそうな雰囲気の魅力を感じ、第二希望で先生方の研究室を選ばせていただきました。第一希望としなかったのは、自分の中でまだ不安が拭えなかったからだと思います。

配属が決まっても、日々の実験で先生やほかの学生に迷惑をかけてしまわないか、大きなミスをしてしまわないかといった心配が残っていました。また、正直なところ、一緒になったメンバーとの協調についても不安があったように思います。男子が1人だった上、これまで3人との接点が少なく、話したこともそれほどなかったため、うまくコミュニケーションをとって適切に連携できるかどうか心配だったためです。

このように多くの不安を抱えた状態で始まった実習でしたが、始めてみると3週間を通じて非常に充実し、とても短い時間を感じられました。実験に際して4人協力して行うことも多かったこと、先生が楽しい雰囲気を作ってくれたことで、コミュニケーションなどの面でも大きな問題はなく、予想よりかなりスムーズに実習を進められたと思います。

実験を通じては、医学研究において基礎となる電気泳動の原理、遺伝子組換えの方法などを理解できたことで、実験に対する「難しそう」「器用でないといけない」といったイメージがかなり払拭できたように思います。2年生で多くの実習を行いましたが、その際には何をしているのかよく分からない状態のままただ指示通りに単なる“作業”に近い行動をしてしまっている状態でした。しかし、同じような内容であっても今回はかなりしっかりとご説明をいただいたため、一つ一つの過程にどういった意味があるのかが分かった状態で実験を進めることができました。キットを用いた実験も何度か体験しましたが、それでも実験の目的や流れを把握することがいかに重要なかが分かりました。ミスを防ぎ、失敗があっても極力すばやく対処するために、十分な知識と冷静な判断力が求められると感じたところです。将来実験に携わる際には、多少時間がかかってもしっかりと理解してから取り組むよう徹底したいと思います。

一方、座学においては、臨床医でも研究医でも必須となる論文読解について学習しました。これまで、文意を正確に捉えることばかり考えてしまい、全体の大きな流れを把握することにはあまり目が向いていなかったように思います。しかし今回、論文の構成や各部分に記す内容、特に重要な部分、あるいは図の読み取り方などをご指導いただき、視点が大きく変わりました。中でも、一つの図から非常に多くの事実が読み取れることには驚きを感じ、大変印象に残っています。まだまだ訓練は必要ですが、教えていただいたことを今後の論文読